高退協ニュース

No.232
2021年
9月7日
発行

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市ノ内2丁目1-10
高知教組会館内
TEL 088(882-1)6822
FAX 088(822-1)6822
郵便振替口座 01650-2-18893

〒780-0850

逼迫？崩壊じゃないか！これが日本の現実か!?

逼迫と崩壊　飯田清久

新型コロナウイルスに感染した妊娠29週の女性の入院先が見つからなくなり自宅で出産し、赤ちゃんはほどなくなくなる、という医療崩壊の事態が、ついに現実のものとなりました。

9カ所の医療機関に受け入れを断られてきました。

また、入院先が見つからず自宅療養を強いられた結果、入院できていれば救えたはずの命が、次々と失われていることが、珍しいことではなくなりつつあるのが今の日本です。これが日本の現実なのです。

大都市圏では、新型コロナウイルスに感染しても入院困難となる状況となり、在宅療養を強いられている人が増えています。一人暮らしの高齢者が在宅で療養、子育て中の家庭では、幼い子どもを抱えながらの自宅療養など、医療提供体制の限界を超え、救える命が救えない事態になる、と緊迫感を増しています。

関東のある在宅医療に携わる医師は、最近の感染者を前にして「感染者増加を抑えることができなければ、医療崩壊は避けられない。そうなれば、多くの人が命を落とすことになる。事態が急変する前に、入院させるべきだ」と訴えています。

また、最近では、感染者を前にして「感染者増加を抑えることができなければ、医療崩壊は避けられない。そうなれば、多くの人が命を落とすことになる。事態が急変する前に、入院させるべきだ」と訴えています。

「家族が濃厚接触者になり、自宅待機を強いられている。子どもの面倒を見ることができない。どうすればいいのか」など、医療崩壊の影響は、感染者だけでなく、その家族にまで及んでいます。

さらに、感染者の家族にまで及んでいます。

「感染者の家族にまで及んでいます。

「感染者の家族にまで及んでいます。

「